

## 通期の見通し

平成 20 年度の販売電力量については、景気悪化による特定規模需要の減少などを織り込み、平成20年10月に公表した想定値（2,967 億 kWh）を下回る 2,924 億 kWh（前年度比 1.7%減）を見込んでおります。

売上高については、電気事業において販売電力量が減少することなどから、前回公表した想定値（連結：6 兆 300 億円程度、単独：5 兆 7,700 億円程度）を連結で 5 兆 9,600 億円程度、単独で 5 兆 7,100 億円程度に変更いたしました。

一方、費用面では、電気事業において、前回公表した見通しより、為替レートの円高化が進んだことや原油価格が下落したことなどにより、燃料費の減少が見込まれます。

以上により、経常損益は、前回公表した想定値（損失として、連結：3,250 億円程度、単独：3,800 億円程度）を変更し、損失として、連結で 500 億円程度、単独で 1,000 億円程度になるものと見込んでおります。

また、当期純損益は、前回公表した想定値（損失として、連結：2,200 億円程度、単独：2,500 億円程度）を変更し、損失として、連結で 450 億円程度、単独で 700 億円程度になるものと見込んでおります。

### <連結>

売上高	5 兆 9,600 億円程度
経常損益	500 億円程度
当期純損益	450 億円程度

### <単独>

売上高	5 兆 7,100 億円程度
経常損益	1,000 億円程度
当期純損益	700 億円程度

（注）通期の収支見通しについては、柏崎刈羽原子力発電所の運転計画について、依然としてお示しできる状況にないことから、前回同様、今年度内は全号機停止していることを前提として算定しております。